



高校生SDGs意識調査

株式会社トゥリー  **TRÉE**
Sustainability Consulting & Communication

※2021年度SDGs Questみらい甲子園参加者アンケート結果より(n=303)
実施期間:2022年4月15日(金)~4月26日(火)

本調査のねらい

株式会社トウリーでは、SDGsを探究し、社会課題解決に向けたアイデアを創出する機会として、高校生を対象に「SDGs Questみらい甲子園」を共催企業、各地の実行委員会、アドバイザー等のご協力の元、2019年より開催してきました。これまで、394校、1,173チーム、総勢5,616人の方に参加いただき、社会課題の解決に熱心に取り組む高校生からSDGs達成に向けたアイデアが生まれました。

「高校生SDGs意識調査」では、SDGsへの興味関心が高く社会課題へのアクションを考えてきた高校生を対象にアンケートを実施しました。高校生のSDGsに対する率直な考えが判明しましたので、ここに報告します。

SDGs Quest みらい甲子園 とは

開催趣旨とねらい

SDGs Quest みらい甲子園は、高校生が持続可能な地球の未来を考え行動するために、SDGsを探究し、社会課題解決に向けたアイデアを考える機会を創発し、そのアクションアイデアを発表・表彰する大会です。その上で、新学習指導要領に記載されている“持続可能な社会の担い手”を育てるために、SDGsを起点とした社会課題解決に向けた行動を促す機会を創発していくことが狙いです。

1. 高校生自身がチームを組み、主体的な学びと行動を創発していく
2. 学習指導要領に基づき2022年に本格的に導入される「総合的な探究の時間」の授業を見据え、SDGsを通じて生徒たちが社会課題を探究する学習環境を整備していく
3. ここで発表されるアイデアを多様なセクターが応援できるパートナーシップで推進し、世代間のつながりを作り上げ、実践的行動を促す

2021年度SDGs Questみらい甲子園の成果

全エントリー数

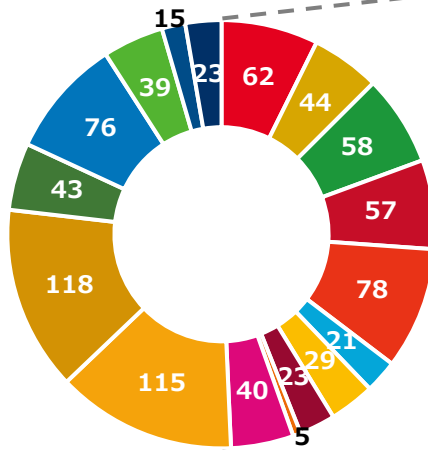
220校 846チーム 総数3,358人

地域別エントリー数

	北海道			首都圏			静岡			東海			関西			九州北部		
	校数	チーム	人数	校数	チーム	人数	校数	チーム	人数	校数	チーム	人数	校数	チーム	人数	校数	チーム	人数
2019	22	70	244	-	-	-	-	-	-	-	-	-	39	144	570	-	-	-
2020	18	42	171	26	94	346	-	-	-	39	114	447	30	123	480	-	-	-
2021	29	71	252	61	196	736	26	114	467	29	87	326	56	268	1145	19	110	432

※首都圏2020年は「神奈川県」大会

ゴール別のエントリー総計



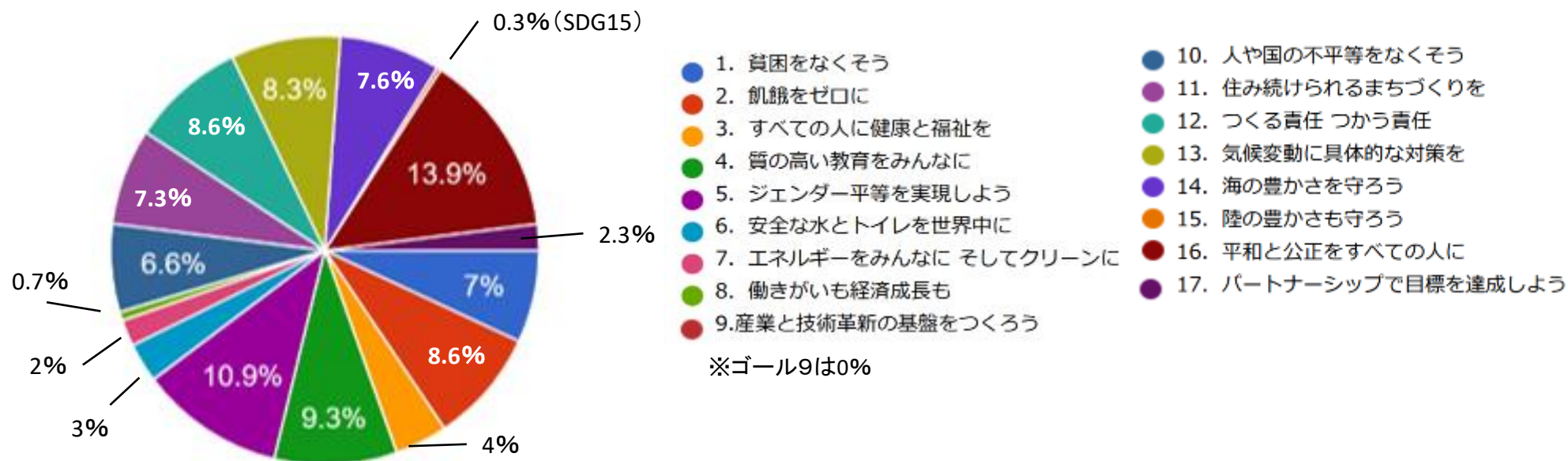
1. 【12.つくる責任 つかう責任】

2. 【11.住み続けられるまちづくりを】

3. 【5.ジェンダー平等を実現しよう】



1. SDGsの重要目標

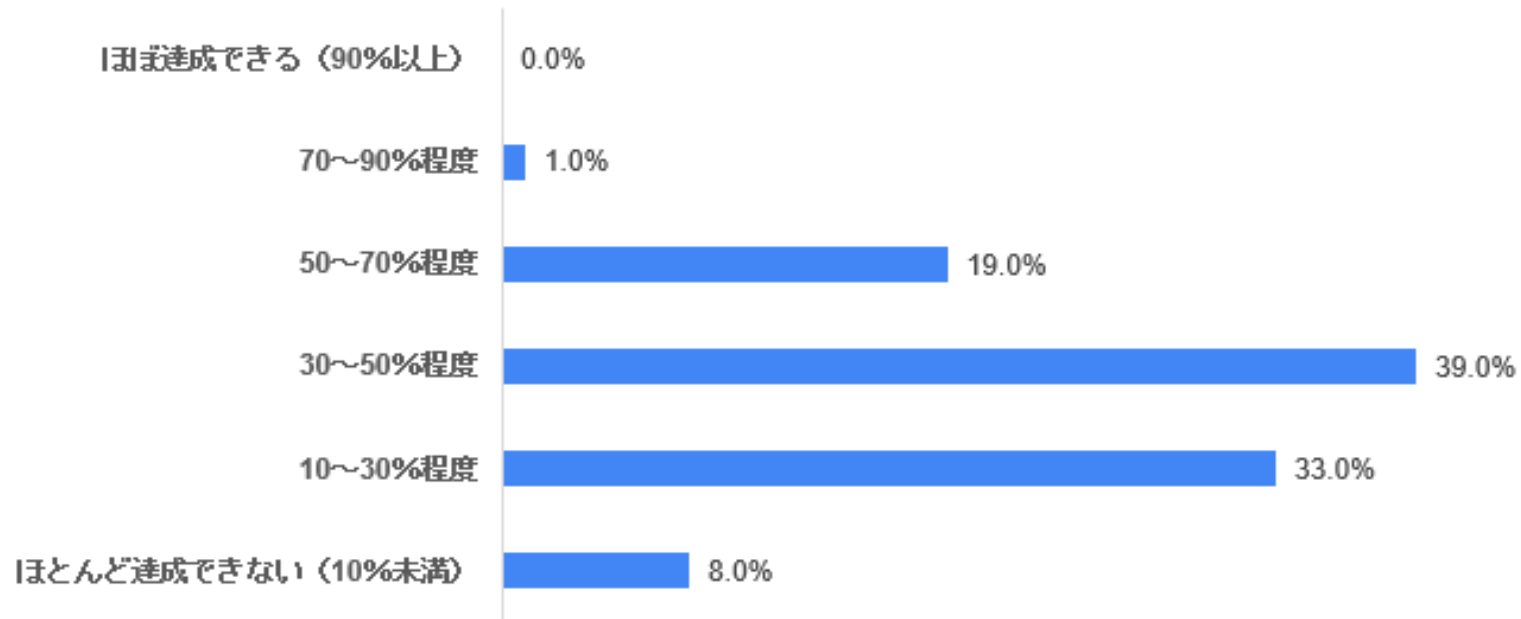


高校生が最も重要と考えているSDGsの上位5つは下記のとおりとなりました。

- 1位 平和と公正をすべての人に(13.9%)
- 2位 ジェンダー平等を実現しよう(10.9%)
- 3位 質の高い教育をみんなに(9.3%)
- 4位 つくる責任 つかう責任(8.6%)
- 5位 気候変動に具体的な対策を(8.3%)

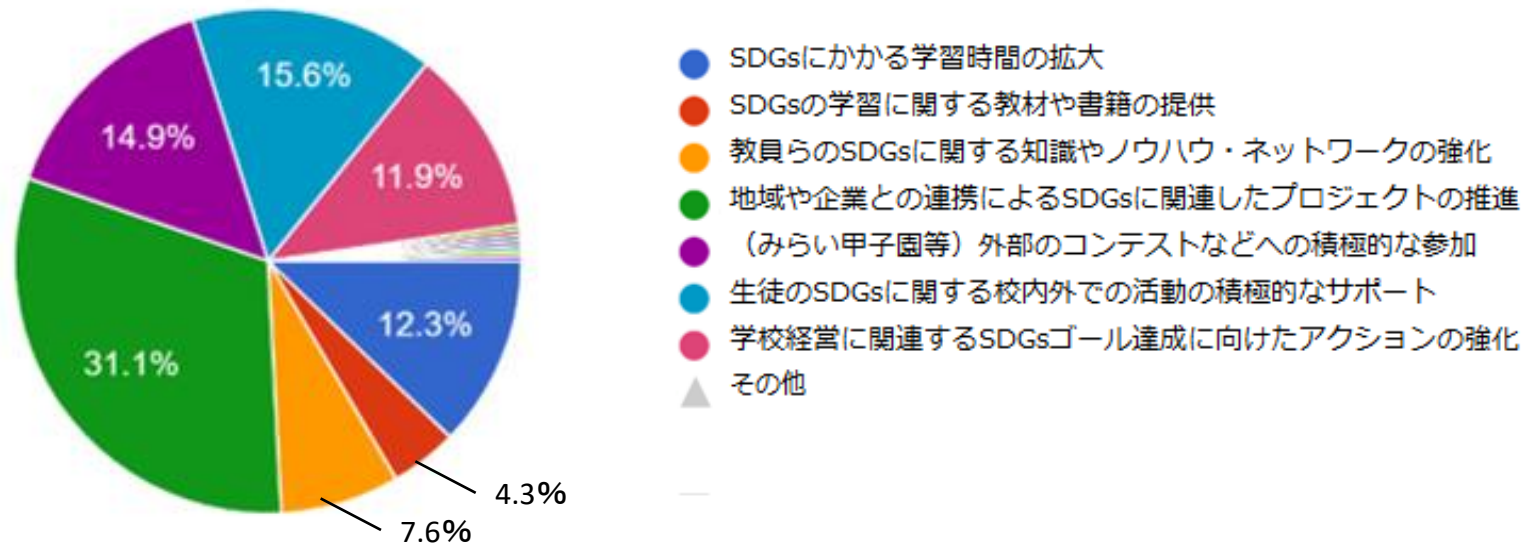
なお、開催エリア別にみると上記の5つ以外に、まちづくり(北海道)、不平等や自然保全(首都圏)、飢餓(東海)が上位にあがりました。

2. 期待されるSDGsの達成度



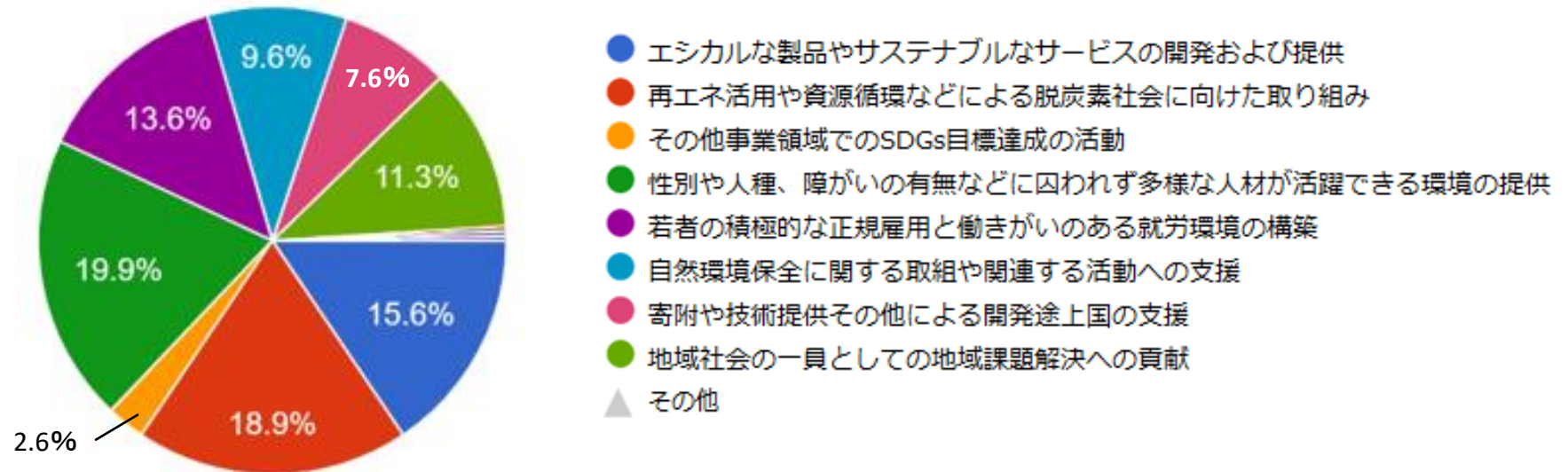
ほとんど達成ができない(7.6%)を含む、8割の高校生がSDGsの達成は50%以下ととらえており、多くは悲観的な思考を持っていることが明らかになった。

3. SDGs達成に向けたSDGs学校への要望



高校生は、SDGsの達成のために学校と地域・企業との連携(31.1%)を求めることが判明した。合わせて、SDGsに関わる学習時間の拡大(15.6%)や教材の充実(14.9)を多くの方が要望していることも示唆された。

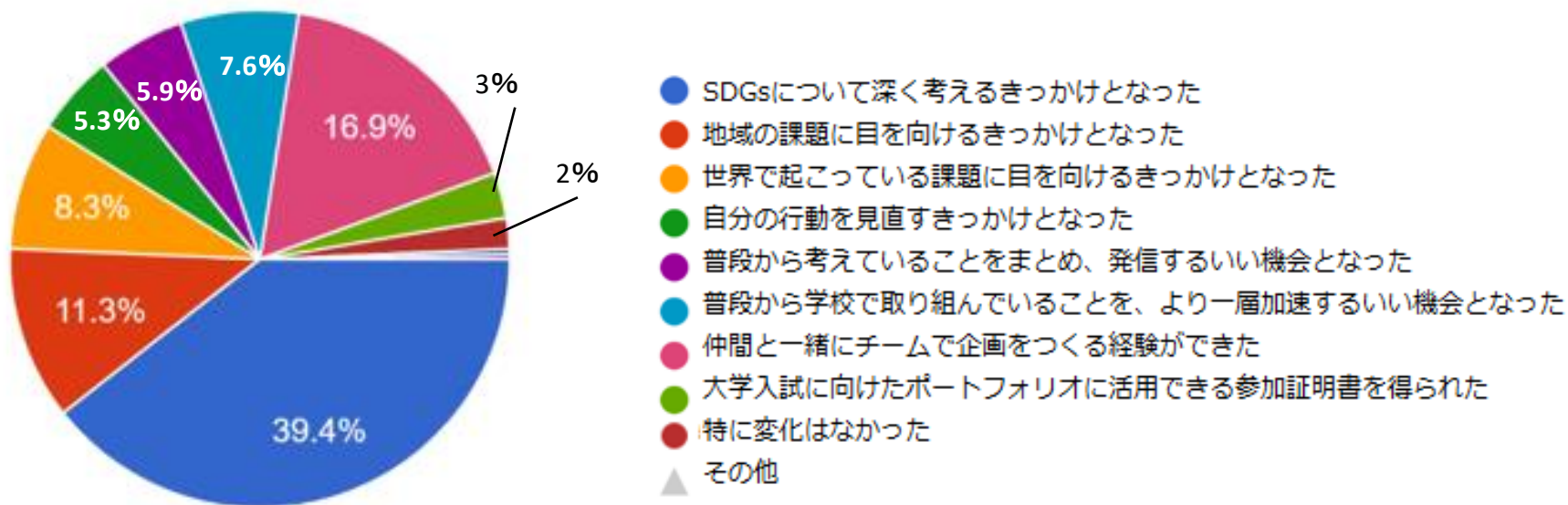
4. SDGs達成に向けた企業への要望



高校生は企業に対して、多様な人材が活躍できる環境の提供(19.9%)、脱炭素社会に向けた取り組み(18.9%)、エシカル製品やサービスの開発と提供(15.6%)を期待していることが判明した。

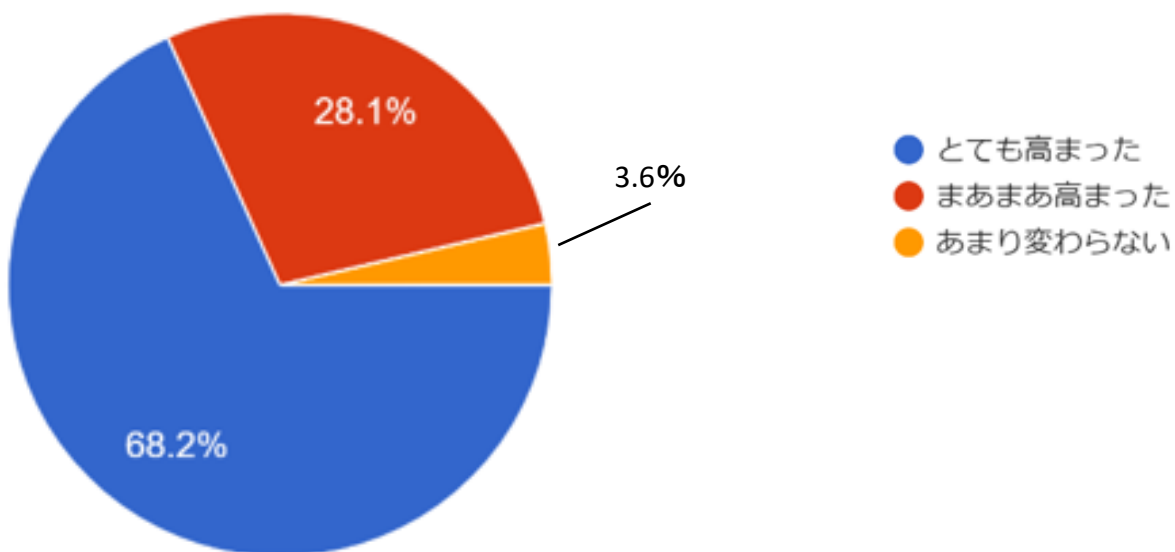
なお、開催エリア別にみると、上記以外に自然環境保全に関する取り組みへの支援(首都圏)、働きがいのある就労環境の構築(静岡県)、開発途上国の支援(北九州)が多くみられました。

5. SDGs探究学習の成果



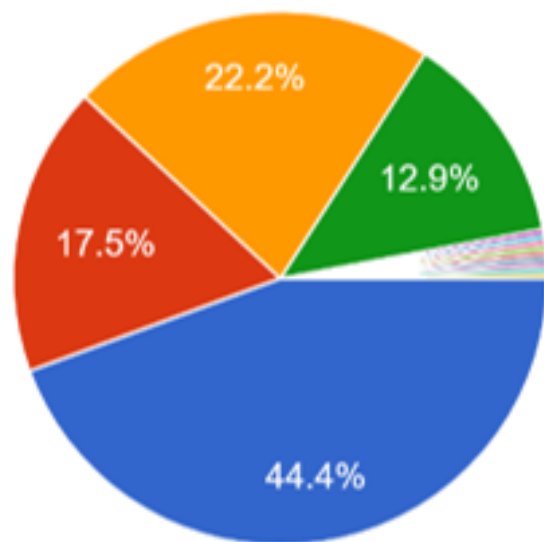
SDGs Questみらい甲子園に参加した高校生は、主にSDGsの理解深化（39.4%）、チームで企画を進める体験（16.9%）、地域課題の発見（11.3%）という気づきを得たことが判明した。

6. SDGsへの行動意識



SDGs Questみらい甲子園に参加することによって、97%の生徒がSDGsの関心や行動に対する意識が高まったと回答された。

7. 探究テーマの選択理由



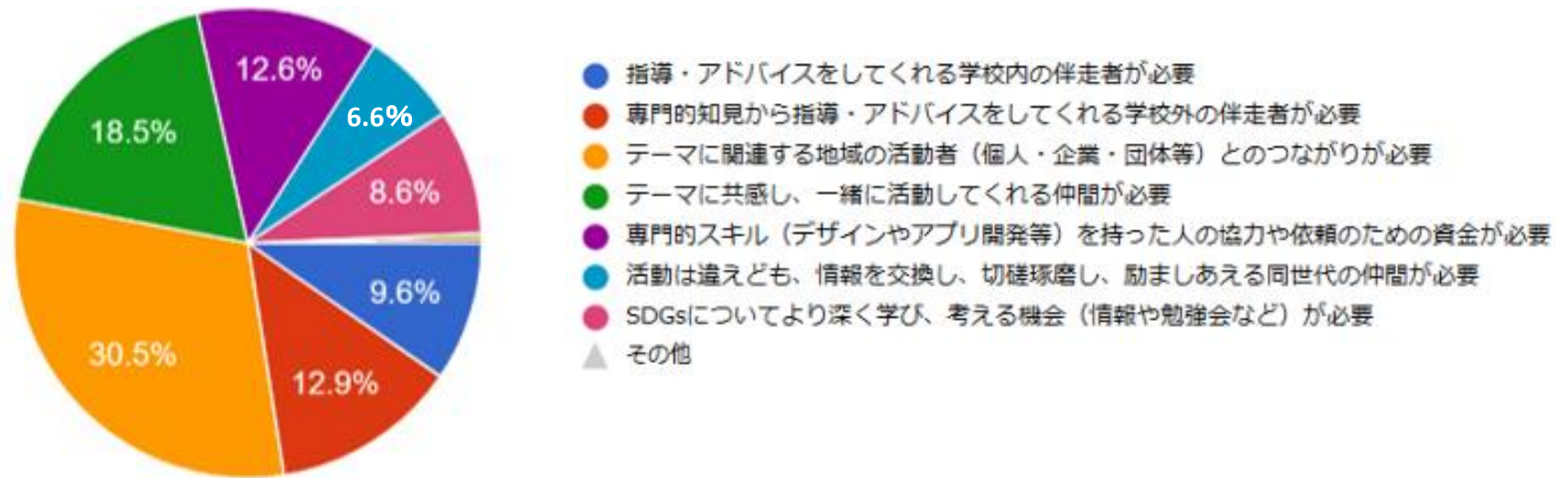
- 日々の生活の中で、興味・関心を強く持っていたテーマだったから
- 大会に参加することになり部活動内で課題を考えた
- 学校での活動時に取り上げていたテーマだったから
- アイデアの原型が頭にあり、そのアイデアを活かして社会課題に貢献できそうだったから
- ▲ その他

※上位10テーマ(2021年度)

LGBTQ、食品ロス、海洋汚染、地域活性化、
貧困、リサイクル、健康、プラスチック、
ゴミ・廃棄物、エネルギー

約過半数の生徒が「日々の生活の中で、興味・関心を持ったテーマ」を選んだ。その中でLGBTQ、食品ロス、海洋汚染に関するテーマが選択された。また、学校での活動時に取り上げていたテーマ(22.2%)、みらい甲子園への参加がきっかけに課題を考えた(17.5%)が上位を占めた。

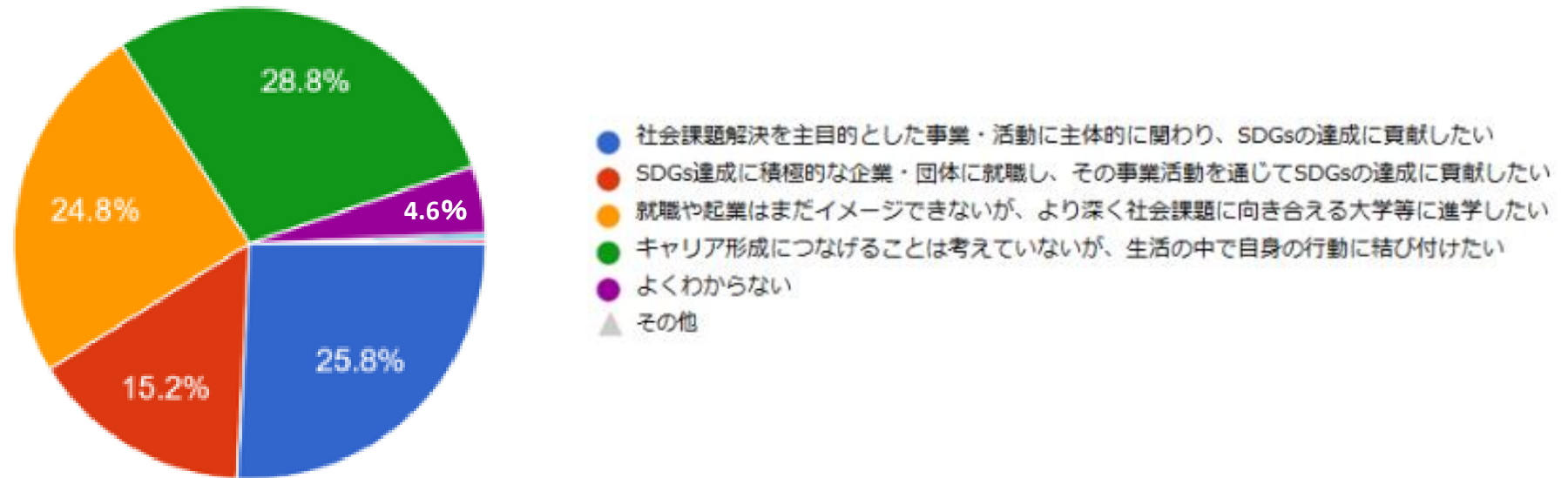
8. アクションのための必要事項



高校生が課題解決のアクションをするにあたって、テーマに関連する地域の実践者とのつながり(30.5%)、一緒に活動する仲間(18.5%)、学校外の指導者やアドバイザー(12.6%)を多くの生徒が必要としていることが示唆された。

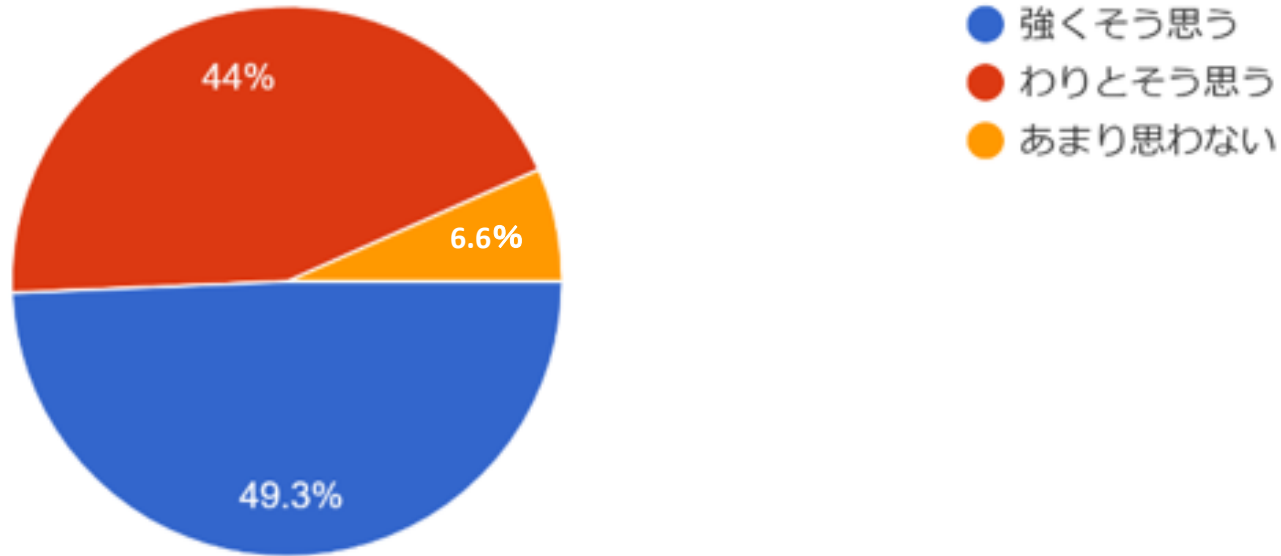
また、開催エリア別にみると、上記以外に専門スキルを持った人と資金(首都圏、静岡県)、SDGsをより学ぶ機会(東海)という回答もみられた。

9. 今後のキャリア形成について



約29%の生徒が社会課題解決を主な目的とした事業活動に関わりたいと回答した。また、就職等のイメージはまだ持っていないないが、普段の生活の中で自身の行動に結び付けたい(28.8%)、社会課題に取り組める大学等への進学希望(24.8%)という考えをもつ生徒が半数以上見られた。

10. 高校生同士のつながりについて



約94%の生徒が、SDGsに関心がある他の高校生とのつながりを持ちたいという意見が聞かれた。